

東京都地方独立行政法人評価委員会  
平成30年度第2回試験研究分科会

平成30年7月25日（水）9：25～12：02

都庁第一本庁舎北塔42階 特別会議室C

東京都地方独立行政法人評価委員会 第2回試験研究分科会

平成30年7月25日

午前9時25分 開会

【牧野技術調整担当課長】 それでは、本日お忙しい中、また暑さ厳しい中、第2回試験研究分科会にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

本日、林委員につきましては、事前に欠席とのご連絡をいただいておりますのでご了承をお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、6月25日に行いました第1回の試験研究分科会で当産業技術研究センターからの業務実績報告書を、報告を受けまして、いろいろ議論させていただいたという。それから、大変短い期間に評価書の作成をいただきまして、まことにありがとうございます。

また、持ち回り分科会では、非常に忙しい中、貴重な時間をいただきまして、いろいろご意見賜りましたことを重ねて御礼申し上げます。

それでは、早速ですけれども、本年度第2回目の分科会を始めたいと思っております。

なお、審議事項につきまして、当初、「平成29年度財務諸表及び利益処分（案）に対する意見聴取」についても予定をしておりましたけれども、まだちょっと内部調整中でありまして、第3回の審議事項にさせていただきましたのでご了承願います。

それでは、青山分科会長、進行をよろしく申し上げます。

【青山分科会長】 おはようございます。

それでは、ただいまから東京都地方独立行政法人評価委員会、平成30年度第2回試験研究分科会を開催いたします。

まず、議事に入ります前に、本分科会は公開となっております、議事録につきましてもホームページにて公開となりますことをご了承願います。

それでは、早速、議事を進めてまいります。お手元に配付してございます式次第をらんください。

本日の議事ですが、審議事項1件を予定しております。

初めに、事務局から配付資料の説明をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 配付資料の説明をさせていただきます。

まず、今ありました会議次第と、その次に席次表、資料1といたしまして、平成29年度地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター業務実績評価項目別評価（案）、A3横判のものです。資料2、平成29年度都産業技研業務実績評価全体評価（案）、A4縦のものです。この資料につきましては、平成29年度評価の事務局案でございます。資料3、平成30年度試験研究分科会開催スケジュール（予定）、A4縦のものです。これは最後にご説明いたします。

委員手持ち資料といたしまして全部で2点ございまして、手持ち資料1のほうは平成29年度業務実績評価項目別評価委員評定案一覧。手持ち資料の2、平成29年度業務実績評価委員評定説明一覧。この資料につきましては、29年度を評価する際に、資料の1、2とあわせてごらんいただく資料となっております。手持ち資料の1のほうは、項目別評価の委員評定の分布となっております。手持ち資料2につきましては、委員の皆様からいただいた評価をそのままとめた資料となっております。

あわせて、本日、年報のほうを先ほど配付させていただきまして、前回はちょっと製本が間に合っていなかった、ここで製本したものをお配りしております。

資料につきましては以上となりますけれども、ご不足等ございませんでしょうか。

事務局からは以上になります。

**【青山分科会長】** ありがとうございます。

それでは、審議事項の都産技研平成29年度業務実績評価（案）について審議を行います。

資料1の平成29年度業務実績評価項目別評価（案）に従いまして、24項目にSからDのいずれかの評価を決めた上で、その説明文について検討してまいりますので、よろしく願いいたします。

まず、項目1の基盤研究についてですが、評定案を事務局から読み上げてください。

**【牧野技術調整担当課長】** それでは、項目別評価の1、基盤研究のほうから説明いたします。項目別の評価につきましては、各委員の方は、Aが4名、Bが1名となっております。

それでは、中身のほうの説明を読み上げさせていただきます。

「環境・エネルギー」、「生活技術・ヘルスケア」、「機能性材料」、「安全・安心」の四つの技術分野を重点化し、「ものづくり要素技術」分野や前年度からの継続テーマと合わせ計94テーマの基盤研究を実施している。

これまでの研究成果により、中小企業の事業化・製品化の事例が前年度より増加し、共同研究や外部資金導入研究への展開にもつながっている。

若手職員向けに研究事業推進研修を新設するなど、研究活動の底上げに取り組んでいる。論文発表と口頭発表の件数は前年度より増加しており、評価できる。

今後も研究成果が活用され、共同研究や外部資金導入につながるるとともに、都内中小企業の新規の事業化に発展することを期待する。

以上です。

**【青山分科会長】**      ありがとうございます。

それでは、この項目の評定について、Aが4名、Bが1名ということですが、産技研さんのほうの自己評価はAということですが、何かご意見はございますでしょうか。特にございませんか。

それでは、Bが1名というご意見がございしますが、A、Bとそれぞれ委員によって多少この評価の考え方というか微妙に違っている、意見が割れることもありますが、今回、Aが4名、Bが1名ということでございますので、この委員会の評価としてはAということによろしいでしょうか。

それから、評価の説明の今、事務局から読み上げていただいた内容は、各委員からのご意見を事務局でまとめて作成したものでございますが、この項目別の評価のコメントについて、何か、特にご意見なければこのままでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

それでは、まず評価項目1はそのようにさせていただきます。

続きまして、評価項目2について、お願いします。

**【牧野技術調整担当課長】**      評価項目2の共同研究です。Aが2名、Bが3名となっております。

共同研究に基づく製品化・事業化及び特許などの出願や登録の件数は前年度以上の実績を上げている。

中小企業のI o T化支援事業、航空機産業への参入支援事業、障害者スポーツ研究開発推進事業を新たに実施した。I o Tの活用はさまざまな分野に波及することから、今後もさらに注力されることを期待する。

研究成果を把握するために、共同研究先への追跡調査を開始しているが、市場性や特許の有効性などの観点からフィードバックがかかり、共同研究の推進につながることを期待

する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

項目2についてですが、これは共同研究ということですが、Aが2名、Bが3名ということで、これはかなり対で割れていますけども、このことについて少し議論したいと思いますが、何かご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

Bというのは、評価としては普通ということなんですね。Aが、Sは特筆すべき評価、成果ということですが、Aは一応、これ評価項目の指標というのが別に資料にもあるかと思えますけれども、そのAとBというところの評価、少し割れていますけれども、何かご意見はございますか。

はい、どうぞ。

【藤竿委員】 こちらの共同研究なんですけれども、私はこのI o Tソリューション研究のところで、東京都I o T研究会を設立したというのが新規で、今までの計画になかったようなところだと思うので、ほかにもI o T関係については、中小企業のニーズも非常に強いということで、とにかく対応して力を入れているというか、そういう姿勢を鮮明にしたというところでAにしたんですけれども、実際216社が参加して、それなりの規模で、実際の活動はこれから本格化するということだと思うんですが、そういう種をちゃんとつくって育てようとしているというところで、今回は、これについてはAということで判断しました。

【青山分科会長】 はい。

ほかに何かご意見はございますか。

私も、これAということでつけてみたんですけれども、今、委員からありましたように、少し新たな取り組みも入っているということで、評価としてはAかなと思ったんですけれども、もしBをおつけになった委員がいらっしゃったら何かコメントをいただけるとありがたいんですけれども、いかがでしょうか。

はい。

【北村委員】 私はB評価にさせていただいたんですけれども、一つは、いわゆる中期計画に基づく目標数値が33件ですか、4ページの(2)のところに書いてある中期目標達成率というのは。

【青山分科会長】 4ページというのは。

【北村委員】 ああ、このでっかいやつ。

【青山分科会長】 ああ、大きいほう、はい。4ページですね、はい。

【北村委員】 4ページの(2)のところに、製品化・事業化等があつて、具体的な数値目標というのが、ここでは33件、期間を通じて33件で25件を実績として上げて76%ということで、その数字自体を見れば、それなりの成果を上げていると思うんですけども、当法人の特徴というのは、目標はすごく低いといいますかね、一年、二年たてば100%を超えちゃうみたいな目標を立てているというようなことも考え合わせまして、普通にやっているんじゃないでしょうかということ。それから、確かにIoT技術に関して新しいことを始めたということかもしれませんけれど、それは6ページの年次計画の中の2に書いてあることをやったんだというだけの、だけの話しかは失礼ですけども、それに基づいた具体的なアクションであるというふうな形で、まだこれからを見てみないとわからないのかなというようなことでB評価にさせていただきました。

【青山分科会長】 はい、わかりました。

波多野委員は何かございますか。

【波多野委員】 私もB評価にさせていただきました。IoTに関してはこれからの期待というところでして、その共同研究したという効果のフィードバックというところをもう少し具体化になっていけばな、というふうに感じて、出した特許もどれぐらい有効とか、共同研究の推進、フィードバックがかかることを期待してBとしました。件数とかというのは、なかなか評価しづらい指標だと思うんです。

【青山分科会長】 はい、ありがとうございます。

ご意見いただきました。これは林委員、きょうご欠席ですが、林委員がBということで、あんまり委員のお名前と評価を結びつけちゃいけないんですけどもね、ある程度それをやらないと議論にならないので、そのように進めさせていただきたいと思いますが、なかなか難しいんですけども、センターのほうが、産技研のほうが自己評価Aということですが、特にご意見が、藤竿委員も特になければ、Aが2でBが3ということなので、この委員会の評価としては、平均だとAとBの間ぐらいなんですけども、A'というのがありませんので、Bということで評価をつけさせていただこうと思いますが、よろしいでしょうか、それで。

【牧野技術調整担当課長】 林委員にはコメントはいただいております、やっぱりIoTはまだ始めたばかりということで、実績が調達できたらAとかSとか、そういう検討

をしたらいんじゃないかというご意見をいただいています。

【青山分科会長】 さようですか。わかりました。では、そういうコメントもあったということで、今回の今年度のところはBということでよろしいでしょうか。

それから、今、事務局から説明いただきましたコメントですね、これについてはこちらでよろしいでしょうか。何か過不足ございますか。今の林委員からののは少し含まれているんですね、このコメントは。I o Tのことについてですね。

【牧野技術調整担当課長】 まあ林委員のところは、委員手持ち資料の。

【青山分科会長】 2番目のあたり。

【牧野技術調整担当課長】 4番目になるんですけども。

【青山分科会長】 4番目ね、ええ。

【牧野技術調整担当課長】 まあI o T自身は評価できますよというところなので、今後、やっぱりこういう生産性とか、そういったことを進めてほしいということなので、そこはさらに今後、注力することに。

【青山分科会長】 力を入れる。

【牧野技術調整担当課長】 一応、力を入れると。

【青山分科会長】 ここに入っている、はい。

それでは、ほかに特にご意見なければ以上でよろしいでしょうか。はい、ありがとうございました。

それでは、この項目2はBということで、それでは、続きまして、項目3についてお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 項目3、外部資金導入研究でございます。委員の評価につきましては、5名ともBとなっております。

外部資金導入研究は提案公募型研究と受託研究を合わせて前年度比10件増の55件と着実に実施した。

外部資金獲得のため、研修・指導を強化し、これまで応募していなかった外部資金についても挑戦を図り、提案公募型研究の応募数は前年度比18件増の72件と増加した。

今後も、外部資金導入のために積極的に活動し、科学研究費補助金以外にもサポイン事業などへ取り組みが展開することを期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

こちらの評価につきましては、委員が全員5名ともBということですので、Bでよろしいのではないかと思います。いかがでしょうか。

それから、今、コメントを事務局から読み上げていただきましたが、このコメントについて何か過不足等ご意見がありましたらお願いしたいんですが。よろしいですか。はい。

それでは、3についてはBで、コメント、事務局案どおりということで。

続きまして、項目4をお願いいたします。

**【牧野技術調整担当課長】** 項目4、ロボット産業活性化事業でございます。委員の評価のほうは、Sが2名、Aが2名、Bが1名となっております。

公募型共同研究開発などを通じてさまざまな機能を提供するロボットの開発支援や案内ロボットを商業施設などで実証実験を行うとともに、実用化へ向けた事例が多く確認され評価できる。

さまざまな国内展示会に出展して支援しているロボットのPRを図るとともに、新たにロボット利用相談ウェブページを開設して事業化支援に役立てている。

世界のロボット動向と社会的ニーズに合った特徴のあるロボット開発やAI、IoTとの連携によるさらなる機能を提供するロボット開発などにより中小企業の新規事業につながることを期待する。

以上でございます。

**【青山分科会長】** ありがとうございます。

この項目4については、少しご議論が必要かと思いますが、BからSまでかなりご意見が割れているんですね。それで、産技研のほうはSということなんですが、いかがでしょうか、何かご意見がございましたら。特にございませんか。

はい、どうぞ。

**【藤竿委員】** ロボットについてなんですけども、このT型の足の部分の開発についてはこれまでの延長線上ではあるんですけども、今回、一つ実証実験をやったということで、実証実験が実際、ロボット開発だと結構難しいというか、みんながいるところでやるといのが一つハードルになっているというところで、そういうところに一步踏み込んで、そうするためにユーザーを巻き込んで、実際、ビジネスモデルを構築しつつあるというところを含めて高く評価したわけなんですけども、あと、実際そういうところで特許等含めて、何というんですか、出願をしているというところも含めて、今回は、ちょっと私はSということにしたんですが、そのほかの公募ですとか、そういう部分については計画どおり、

ちょっと計画を上回るぐらいの感じで推移しているのではないかなというところです。

【青山分科会長】 はい、ありがとうございます。

これ、林委員から何かコメントをいただいていますか。

【牧野技術調整担当課長】 林委員のほうはですね、一応、このT型ロボットベースでの産技研の技術シーズというところで、それを実用化というか、ロボット等に活用しているというところと、やはり中小企業にとって、なかなかそういうプラットフォーム的のところはなかなか手が出ないので、まだちょっと成果というところを考えると、多少はそれなりの課題があるかもしれないけども、そういう挑戦しているというか、なかなかまだ市場ができてないところに向かっていくという姿勢を結構評価していただいている。ただ、成果というところを見ると、Aに近いSかなというような表現でございました。

【青山分科会長】 ああ、そうですか。

ほかの委員のほうから何かご意見はございますか。

別のところと混線していますね。

【波多野委員】 すみません。

【青山分科会長】 はい、どうぞ。

【波多野委員】 Bをつけたのは私です、すみません。

【青山分科会長】 いえいえ、別に構いません。

【波多野委員】 やっぱりかなりの研究の費用が投資されているというのは確かで、それに対して、中小企業にどれだけフィードバックがかかっているかというところがまだこれからかなというふうに思いました。

それと、ロボットはかなりAIとかIoTとともに、まだ世界も社会、ほかの大きな企業もかなり進んでいるところで、この特に案内ロボットの訴求力というのがどこまであるかというのはもう1回見直さないと、その、何というんでしょうね、かなり難しいのかなというふうに、社会実装するにはまだハードルが高いかなというふうに正直感じました。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

北村委員は何かありますか。

【北村委員】 私も、ロボットとか航空機とかといった相当の名前が、重点項目という形で力を入れられているんだろうと思いますけども、その割に、素人がこんなことを言っちゃ失礼ですけども、SということはないんじゃないでしょうかということでAをつけさせていただいたんですけども。

【青山分科会長】       ありがとうございました。

私もAをつけたんですけども、これは計画上の延長線上でこの一定の、先ほど藤竿委員からも紹介いただきましたけれども、一定の成果があるということで、Sということはないのかなというのは、私も一定の計画線上で進展しているという意味でAという評価をつけさせていただいたんですけども、皆さんからご意見いただきましたけれども、何か、ここでまとめなくちゃいけないんですけども、今、ご意見いただいた内容から見ますと、これは評価としてはAが妥当かなと思うんですが、いかがでしょうか。2名からSということがございますが、ちょっと林委員のコメントも今伺いましたし、Aという評価でよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

コメントについてはいかがでしょうか。こちらでよろしいでしょうか。よろしいですか。

この資料1のほうの評価4のところ、項目4ですね、そこにある三つの事務局でまとめたコメントがございますが、こちらでよろしいでしょうか。一応、皆さんの事務局が持ち回りで伺って、それを含めてまとめ上げているということですが、特に何か落ちている、自分のご意見がその中に含まれていないとか、ちょっと違ったことが書いてあるとか、そういうことがあればご指摘いただきたいんですが。よろしいですか。はい、それでは、ありがとうございます。そのようにさせていただきます。

では、項目4はAという評価でお願いいたします。

次、項目別評価の5についてご説明ください。

【牧野技術調整担当課長】       項目5、生活関連産業の支援でございます。Aが2名、Bが3名となっております。

オーダーメイド開発支援の件数は前年度を下回ったものの、感性工学、人間工学的なアプローチにより、特徴ある製品開発につながっている。

中小企業では感性工学の適用が難しいため、今後、人間生活工学機器データベースの活用などにより製品開発支援を強化することを期待する。

以上でございます。

【北村委員】       ありがとうございます。

これはAが2名、Bが3名ということですが、何かご意見いただければと思いますが。ほぼ計画どおり進んでいるというような評価なんですけれども。いかがでしょうか。

私はですね、先ほどの前の項目と、ロボットのところと同様なんですけども、このことについては、計画に対して人間工学系の公設試との連携強化なんかも含めて、一定の発展

が認められるのではないかとということでAという評価をつけさせていただきましたが、ほかに何かご意見があればと思いますけれども。

林委員はどういうコメントですか。

【牧野技術調整担当課長】 林委員の評価であることはここにもあるんですけど、やっぱりデータベースをつくって活用しているところと、やはり中小企業って、このデザインとか、そういう感覚的なところというのは苦手だということをおっしゃっておられました。

【青山分科会長】 なるほど。苦手というのは。

【牧野技術調整担当課長】 なかなか物をつくるのはできるんですけども、その辺のデザインの付加価値をつけるとか、差別化するようなところってなかなか手が出しにくいとか、なかなか及ばないところだということをおっしゃっていたので、こういう感性工学的な取り組みは非常にいいということでございました。

【青山分科会長】 ほかにご意見はございますか。

はい。

【藤竿委員】 ほぼ計画どおりに推移していると思うんですけども、私は、このオーダーメイド開発支援が、前年度72件で、今年度は44件と大幅に減っているというところでちょっと評価を下げました。

【青山分科会長】 ああ、そうですか。はい。

ほかに何かご意見はございますか。特にございませんか。

それでは、それぞれ皆さんの委員からのコメント、特に名前は書いて当てはめてはいませんけど、手持ち資料の2にございますね。そちらも見ながらということですが、今いただいたご意見でありますと、こちら2名Aで、Bが3名ということですので、ほぼ計画どおりではないかと。一部ちょっと達成してないところもあるけれどもというようなコメントがありましたので、こちらについては評価Bということにさせていただこうかと思いますが、よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

コメントについてはいかがでしょうか。よろしいですか。はい、では、このようにさせていただきます。

続きまして、2の中小企業の製品技術、新事業展開を支える技術支援というほうに移りたいと思いますが、項目の6ですね、こちらについてご説明をお願いします。

【牧野技術調整担当課長】 項目6、技術相談のところでございます。委員の皆様の評価は、5名ともBとなっております。

技術相談の件数は、高水準を維持している。

相談者の目標達成度の調査においても高い評価を得ている。

「支援事例カード」のデータベース化を図り、活用することでニーズの把握に努めることを期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

こちらは、評価については、指標については5名ともBですので、特にご意見なければBでよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。はい。

今、事務局から読み上げていただきましたコメント三つございますが、このようなコメントでいかがでしょうか。よろしいですか。

【波多野委員】 ちょっとよろしいですか。

【青山分科会長】 はい、どうぞ。マイクを。

【波多野委員】 申しわけありません。「支援事例カード」のデータベース化を図りつて、これはもう既に、こられないですよ。

【牧野技術調整担当課長】 そうですね、データベース化というか、エクセルなんですけども、それを所内で共有できるような形になっているということです。

【波多野委員】 はい。それは始まったのに、それをさらに何か進めるという、これ何かまだやってないみたいな。

【牧野技術調整担当課長】 そうですね、ちょっと産技研にも確認したんですけど、私も幹部会等に出るときに、この事例カードで謙虚な事例とかがって照会いただくところなので、こういう素案があつて、こういう成果があつたということを会議の場とかで共有するのは、それは一部とか幹部中心なんですけども、それを一般職員も見て、こういうものを自分でも書いてみようとか、一応そういう共有を図ることが目的なので、今後さらに何かもう少し活用することがあれば検討をしてもらえればという感じに思っています。

【青山分科会長】 よろしいでしょうか。

【波多野委員】 はい。

【青山分科会長】 ほかに何かコメントについて、よろしいですか。はい。

それでは、この項目6については評価Bで、ここに三つのコメントを挙げていただきましたけど、そのようにコメントするということがよろしいでしょうか。はい。

では、続きまして、項目7をお願いします。

【牧野技術調整担当課長】 項目7、依頼試験でございます。Sが1名、Aが4名となっております。

依頼試験の件数は、前年度よりやや減少しているものの高水準を維持しており、中小企業の技術課題の解決に貢献している。

都産技研ならではのブランド試験が、前年度以上に件数や全依頼試験中に占める割合がふえており評価できる。

今後も中小企業では導入の難しい機器を整備して、質的、量的な面から充実した支援を期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

この項目について、何かご意見はございますか。

お一方Sという評価であります、あと4名の方がAということでございますので、特に何かご意見なければ、この項目については評価Aでよろしいのではないかなと思いますけども、いかがでしょうか。

そして、今、三つのコメントについて、何か補足あるいは削除すべきことがございましたらご指摘をお願いしたいと思いますが。

よろしいでしょうか。はい、それでは、このようにさせていただきます。評価は、7についてはAということをお願いいたします。

続きまして、評価項目の8に移ります。8について説明をお願いします。

【牧野技術調整担当課長】 項目8、機器利用サービスの提供でございます。Sが2名、Aが3名となっております。

依頼試験からの移行や実績週報による進捗管理などにより、過去最高の機器利用件数となったことは評価できる。

城東支所に「デザインスタジオ・ものづくりスタジオ」を開設し、新たな機器を導入するなど、地域のものづくり支援の強化を図った。

今後も、中小企業のニーズを捉えた機器を整備して、新製品開発のための機器利用サービスの提供を期待する。

以上です。

【青山分科会長】 はい、ありがとうございます。

こちらは評価指標、Sが2名、Aが3名ということでございます。少しご意見を伺った

ほうがいいと思いますが、何か委員から、皆さんからご意見があればお願いしたいと思いますが。いかがでしょうか。

林委員からはどういうコメントが出ていましたっけ。

【牧野技術調整担当課長】 林委員はこの2-2の4番目と、やはり中小企業にとってなかなか機器等はあっせんできないので、やっぱりこういう変化の激しい時代に対応できるように対応機器をふやしてほしいというコメントをいただいております。

【青山分科会長】 はい。

ほかに何か、ご意見はございますか。

こちらの、私はほかのことについても申し上げていますが、当初計画があつて、その延長上として高い実績が出ているので、特別にポンとジャンプアップしたというようなところはあんまりなかったように思いましたのでAといたしましたけれども、ほかにご意見はございませんか。

はい。

【北村委員】 そうですね、これは結局、機器利用サービスですから、機器をそろえればふえるんだという、そういうことなんで、特別に特定の努力をして云々ということよりも、その機器を整備するということが結果が出てくるということなんで、なかなかSというのは難しいのかなという気がしますけど。

【青山分科会長】 計画的に機器をそろえてふやして行って、それで効果が出てきていて、それで評価がAということかなと思うんですがね。何か、その機器利用そのものの、何というんですかね、例えばですけれども、新たな方法を導入して飛躍的に何かよくなったとか、そういうのがあると、これはSにするということもあつたかと思うんですが、いかがでしょうかね。ほかに何かご意見はございますか。特にございませんか。

それでは、こちらは、少しこれも割れているんですが、委員会としては、先ほどのロボットのところもありましたけども、評価はAということにさせていただきたいんですが、よろしいでしょうか。はい。

それでは、評価項目8についてはA、それから、コメントが三つ、まとめたものがありますけど、こちらについてはいかがでしょうか。特にはないですか。

例えば今、私がちょっと申し上げたような機器利用の形態について、やり方について、これはよい成果が出ているので、その上でどうこうというのもちょっと厳しいかもしれませんが、新たな危機利用のニーズに対する、その機器利用の形態の新たな提供の形

とか、中小企業にとって、さらにその機器利用がやりやすくなる、あるいはどのような機器が利用できるのか、どういう使い方ができるのかといったような、十分これをやられておられると思いますが、そういう新たな方法についても検討していただければいかがかというように、もちろん十分な成果は出ているんだけどということですね。そんなコメントもちょっと事務局のほうで考えてつけていただければいかがでしょうか。

【牧野技術調整担当課長】 はい、じゃあ、その新たな方法も検討するというコメントについて記載していきたいと思います。産技研ともちょっとそれは調整させていただいてですね。

【青山分科会長】 そうですね、はい。誤解のないように、今のやり方が悪いと言っているわけじゃなくて、そういう意味ですけど。

【牧野技術調整担当課長】 また後で出てくるんですけど、機器利用で結構、依頼試験から機器利用にシフトしていく中で、やっぱり依頼試験で使うのは結構、操作が難しいような装置をお客さんに教えて機器利用するとか、そういう取り組みも結構進んできているかなというちょっと印象があって、そのほかに何かあるって私は今思い浮かばないんですけど、その辺ちょっと表現を工夫しながら検討します。

【青山分科会長】 はい、ありがとうございます。

それでは、そのようなところを少し加えることを検討していただくということでよろしいでしょうか。

では、項目9に移ります。説明をお願いします。

【牧野技術調整担当課長】 項目9、3Dものづくりセクターでございます。Sが4名、Aが1名となっております。

依頼試験・機器利用の合計実績は前年度比微減だったものの、中期計画目標値を上回る実績を上げている。

オーダーメイド開発支援は前年度1件から今年度は22件に増加しており、評価ができる。

3D技術を活用して、多数で独自性の高い製品開発を後押しするとともに、新たにセラミックAM技術支援への基礎技術を確立するなど、積極的な取り組みは高く評価できる。

3Dプリンタにより、製造方法だけでなく、設計方法等のノウハウなどが知的財産の取得につながるなど、ものづくりの概念が進化しており、今後もさらなる独自性のある高度な製品開発事例につながることを期待する。

ここでは、一応ちょっとコメントを忘れたんですけど、Aは評価できるというコメントにして、Sをつける場合は高く評価ができるという表現でちょっと重みづけをしているところで、一応、セラミックAMという新しい技術に取り組んでという積極的な取り組みにできるものは中心に高く評価という、ちょっと事務局としてそういう重みづけをしたというところと、最後のところは、ちょっとなかなか表現として、こういう表現がわかりやすいというのはあるので、その辺ちょっとご意見いただければなというふうに思っています。

【青山分科会長】 最後の4番目。

【牧野技術調整担当課長】 最後の四つ目のところですね。四つ目のところのコメントが、なかなか単なる3D技術で製造方法が変わったというだけじゃなくて、いろんなノウハウとか、そういうものがいろいろ特許化するとか、そういう今流れがあるので、そういうところを含めて、今後の独自性のある製品開発をしてほしいという、なかなかこの3D技術のものづくりの概念を変えたというところをちょっと表現したかったということです。

【青山分科会長】 はい。いかがでしょうか。

こちらは、指標については、Sが4名でAが1名いらっしゃるということですが、自己評価はSということもありますけれども、このことについては、評価指標はSということでいかがでしょうかね。よろしいでしょうか。

それで、コメントですが、今、四つこれコメントをまとめてありますけれども、一番最後の、特に、ほかのところもごらんいただきたいんですが、4番目のところですが、こういう書き方でよろしいでしょうかということなんですが、いかがでしょうか。何かご意見いただければと思います。

はい、どうぞ、波多野委員。

【波多野委員】 私のコメントで、今、ものづくりセクターであることは確かなんですけど、今後の中小企業のコア技術というところに、関連、強くするという観点からすると、3Dプリンタが入ったことによって設計が、ITとかが変わってきましたので、その辺を中小企業さんの強い何か力になるようにということの意識づけが、このセクターでできるのかというような期待を込めました。

【青山分科会長】 この表現でよろしいですか、この書き方で。

【波多野委員】 はい、大丈夫です。

【青山分科会長】 はい。ということですが、いかがですか。事務局のほう何か、事務局が迷ったという。

【牧野技術調整担当課長】 なかなかちょっと技術的な、私はちょっと3Dのところはそんなに詳しくないので、ニュアンスとしてはハード的な、つくるところは当然、やっぱりそのソフト的なところも出てきたなという印象で書いて。

【青山分科会長】 そうですね、うん。

【波多野委員】 ハードとソフトが切り離せなくなってきているので、ハードだけだと、なかなかできたものしか知財の対象にならないんですけども、だけど、ソフトと組み合わせると、3Dのこういう、3Dってやっぱり特殊なんですね、IPも。ういうところを組み合わせれば強くなるかなというところ。

【青山分科会長】 例えば、これは波多野委員のお考えに合ってるかどうかわかりませんが、例えば金属材料の金属の3Dプリンタにしても、いわゆるハードそのものよりも、それも大事なんですけど、CAMですね、それをどうやって動かしていくかという。それは、切削加工機はCAMがあって、NC構造で、Gコードで書くわけですけどね、相対的に、要するに刃物と工作物をどう動かしていくかということですよ。だから、それと同じ考え方だと、3Dプリンタの場合、うまくできないんですよ、物がね。多分、そのあたりも含めておっしゃっているのかと。これを、ちゃんとハードを動かしていい製品をつくるためのCAMソフトとか、CADとか、そういうものを一緒に合わせていくとさらによい、例えば中小企業さんが使うようなときに、ぱっと物ができると。そういうCAMとか、そういったソフトのところも特許、知財として固めていくと、さらに強力なものになるでしょ。

【波多野委員】 全体としてIoTとかAIとかおっしゃってるので、そっちのほうの技術力になってくると思います。

【青山分科会長】 大体3Dプリンタって今いろんなものがありますけど、すぐできるっていうけど、なかなかやっぱりその裏には相当ノウハウがあって物ができてるので、そのところが、もうちょっとCADとかCAMとかですね、そういうものがしっかりしていけば、まず設計図持ってくればすぐできるみたいに近づいていくと思うんですけどね。そこら辺のところも含めてということですね。はい。

【牧野技術調整担当課長】 じゃあ、基本的にこのコメントで。

【青山分科会長】 このコメントでよろしいと。

【牧野技術調整担当課長】 ちょっとさせていただければと思います。

【青山分科会長】 はい。

ほかに何かご意見はございますか。よろしいですか。はい、ありがとうございました。

それでは、項目9については、指標はSということで、コメントもこの四つのコメントということでお願いします。

続きまして、10、お願いします。

【牧野技術調整担当課長】 項目10、先端材料開発セクターでございます。Aが4名、Bが1名となっております。

依頼試験・機器利用の合計実績は前年度比微減だったものの、中期計画目標の達成に向けて堅調に推移している。

研究開発を着実に実施し、特許出願、学協会発表などの成果展開を行っている。

地球環境保護に貢献する新素材、印刷技術による表示デバイスなど、独自性の高い製品の開発につながっており評価できる。

今後も「環境・エネルギー」、「安全・安心」などの観点から経済効果の大きい製品開発や知的財産の有効活用を期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。何かご意見はございますか。

評価指標につきましては、Aが4名、Bが1名ということでございますが、特にご意見なければ、この評価については、センターのほうもAということなので、Aという評価をさせていただこうと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それで、コメントについてはいかがでしょうか。

これは、私は具体的に、これはたしか炭酸カルシウムの材料で、新素材で紙に使われ、プラスチックにかわるようなものを出してきていますよね。ああいうのというのは、これから、最近、急速にやっぱり、ウミガメの鼻にストローが詰まったというニュースから、よくあれ出てきますけども、やっぱりプラスチックをどんどん使わないようにしていこうというのがあって、ストローなんかも何か紙製のストローを使っていくとかということもありますし、だんだんこのプラスチックの製品を減らしていこうという世界的な、やはりそういう構成ですね、どんどん強まっていくんじゃないかと思うんですね。恐らくヨーロッパなんかは、これ結構そういう動きって早いので、場合によっては、そういうプラスチック製品は一切だめみたいな極端なことに動き出すおそれもありますよね。全部、電気自動車にすると言ってるのはヨーロッパ発信ですよ。ですから、そういうことを見越すと、

やっぱりこういう材料というのは、開発というのは、中小企業にとっても非常に、少し将来性を見た事業の動きかと思いました。

何かほかにご意見はございますか。よろしいですか。

コメントについてもよろしいですか、じゃあ、これで。はい、ありがとうございました。

それでは、11番目の項目をお願いします。こちらはAということで、では、11番目をお願いします。

**【牧野技術調整担当課長】** 項目11、複合素材開発セクターでございます。Aが5名となっております。

依頼試験・機器利用の合計実績が前年度から大きく増加しており評価できる。

成長産業向けの繊維強化複合材料に関する研究開発や伝統産業に先端技術を融合した研究などを実施している。

今後も中小企業ニーズの分析を進め、製品化へつながるよう取り組みの強化を期待する。

以上でございます。

**【青山分科会長】** ありがとうございます。

こちらについては、委員全員の評価がAということでございまして、自己評価はSということではありますが、委員全員がAということでございますので、この委員会の評価としてはAということによろしいでしょうか。

それで、コメントが今三つまとめてありますが、このコメントについてはいかがでしょうか。

特にないですか。よろしいですか。はい。それでは、このようなコメントで回答をさせていただくということをお願いいたします。

続きまして、12番目、お願いします。

**【牧野技術調整担当課長】** 項目12、オーダーメイド開発支援でございます。Aが5名となっております。

実施実績が前年度比70件増の520件に増加しており評価できる。

材料、精密加工、エレクトロニクス、環境などのさまざまな技術分野で中小企業ニーズに確実に応えており、オーダーメイド開発支援の製品化達成度調査においても評価されている。

以上でございます。

**【青山分科会長】** ありがとうございます。

こちら委員全員がAという評価であります。センターのほうの自己評価もAということで、こちらはAという評価でよろしいでしょうか。

コメントについてはいかがでしょうか。

これは個別の評価のコメントを見ますと、4番目のところですね、相談しやすい場づくりを通じてニーズとシーズのマッチングの場をふやしてほしいというコメントがありますが、ここは含まれていないような感じがするんですけど、いかがでしょうかね、事務局としては。

【牧野技術調整担当課長】 オーダーメイドについて、今後の期待するところというのは、あえて、ちょっとご意見をいただければなという思いもあって、コメントに記載はしてないんですけども、一つは、委員手持ち資料2の1番目のところで、オーダーメイドの満足度調査自体は結構高い評価なんだけども、やはり満足していると、やや満足しているというところを見ると拮抗してるので、やや満足しているところをいかに満足させるかという趣旨なのかなというところを入れるのか、あるいは4番目のような形で、林委員のほうは、やはりこういうオーダーメイド開発セミナー、この初期の段階での支援というのはあること自体をよく知らなかったというのがあるので、やっぱりそういうふうにもっとPRして、そういうニーズとシーズの、いわばマッチングするようなふうにしたらどうかという意見でございましたので、そこも含めて、3番目にそういう期待するところをどう入れたらいいかなというところをちょっと議論いただければと思ってるんですね。

【青山分科会長】 はい、そこはちょっと、では、今、皆さんでコメントをもう少し加えるという方向でご議論いただければと思いますが、いかがでしょうかね。

これは満足度のオーダーメイドの、この満足度の評価というのはなかなか難しいとは思うんだけど、これは私が多分コメントしたんだと思いますけどね。一応アンケートはとっていたんですよ、これ。

【牧野技術調整担当課長】 この資料の29ページ目の右下のところに調査の結果というのがございます。そこで十分達成できたと、ある程度達成できたと、それで95%は達成できたというところの分布なんですけども、わずかに達成できたという方はゼロで、本当に達成できなかったというのが5%なんですけど、ここを全体的にいい評価がある中で、さらにこう。

【青山分科会長】 うん、5%。

【牧野技術調整担当課長】 ええ、どうするかというところを、どう表現したらいいか

なんですけど、あえてコメントするかということを含めてと思います。

【青山分科会長】 なるほど。そうですね。

【北村委員】 これの中でも、その90%というところとすごくいい成績に見えるんですけども、ある程度達成できたが50なんですよね。ある程度達成できないようなことじゃ逆に困っちゃうんで、B以下になっちゃうのかもしれないんで、そこのところをもっと上げていく必要があるのかなという気がするんですけどね。その達成できなかった5%というのも、確かに上げるというのは必要ですし、原因がどこにあるのかというのものもあるのかもしれないんですけども、ある程度達成できるのは当たり前でしょというような感じがするんですけどね。

【牧野技術調整担当課長】 このオーダーメイド開発支援の特徴から言うと、まず開発する前というか、構想段階からの相談なので、ちょっとやってみないとわからない的どころが多分あるので、本当にうまくいったというところと、結果的に支援してもらったけども、思ったような効果がなくてできなかったとか、でも、いろいろなパターンがあるので、事業の性質から言うとなかなかこう、まあ分析することは重要ななと思っているんです、中身まで。それをちょっともう少し見ないと、なかなかそれを初期の段階で十分達成できたというのを上げるというのは何か難しいかなというふうにはちょっと事務局としては思った次第です。

【青山分科会長】 はい。これはセンターのほうとしては、ここの資料に出てきているのは何%、何%という数字ですが、丸めた結果としてエッセンスがここへ出てきているんだと思いますけども、センターとしては、ある程度、例えば達成できなかったという5%の方からは、どうして達成できないのかというような、そのコメントはもらっているんでしょうかね。

【牧野技術調整担当課長】 ここの29ページの資料の。

【青山分科会長】 ええ、ありますか。

【牧野技術調整担当課長】 この表の左側を見ると、一応、お客様の声というのがあるんで、達成できなかった場合のコメントまで拾っているかどうかはちょっと確認しないとわからないんですけども、そういうお客様の声欄みたいなのがあって、そこでコメントは拾っているという状況かと思います。

【青山分科会長】 ああ、そうですか。

ほかに何かご意見、ございますか。

はい、どうぞ。

【藤竿委員】      じゃあ、入れるのであれば、このところの、一つは、この十分達成できたというの、もとはやっぱり45、半数切っているんで、そこを一つもっと積み上げるといふか、そういった方向で努力するということと、あと、達成できなかったというのが少しありますので、その場合は、その原因、できなかった理由ですとか、そういうのを追求して、次の改善につなげるといったようなところを盛り込めばいいんじゃないのかなと思いますけれども。

【青山分科会長】      ありがとうございます。コメントの方向性としては、そういうことがいいんじゃないかと思えますけどね。それにある程度ということ、達成できなかったところの、そのどちらかというマイナスのほうの要因の分析ですね、そういうのをやっていただいて次に反映していけば、さらに達成満足度をアップできるんじゃないかと、こういうことですよ。そこを取り組んでいただければということだと思います。

よろしいでしょうか。

【牧野技術調整担当課長】      はい、じゃあ、そのような達成。

【青山分科会長】      はい。コメントを、じゃあ、1文もっと追加していただくということで。

【牧野技術調整担当課長】      はい、そっちのような方向性でコメントを追加したいと思います。

【青山分科会長】      はい、よろしいでしょうか。

それでは、ここは、評価はAということで、今、議論いただきましたコメントの一つ加えるということにさせていただきたいと思えます。

続きまして、項目13、お願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】      項目13、製品開発支援ラボでございます。委員の皆様の評価は全員5名ともBとなっております。

高い入居率を維持しており、入居者に対する製品化・事業化支援を着実に実施している。機器利用サービスの利用が伸びているが、利用者のニーズを分析して、そのほかの支援の可能性について検討するなど、入居者の製品開発段階に合わせた支援が望まれる。

以上でございます。

【青山分科会長】      ありがとうございます。評価につきましては、こちらは委員全員がBで、自己評価もBということですので、評価Bということでよろしいでしょうか。はい。

コメントについてはいかがでしょうか。

よろしいですか、このような内容で。はい、ありがとうございます。では、このようにさせていただきます。

続きまして、14番目、お願いいたします。

**【牧野技術調整担当課長】** 項目14、実証試験セクターでございます。Sが3名、Aが2名となっております。

依頼試験と機器利用の合計実績は過去最高を達成しており、高く評価ができる。

品質保証推進センターにおいて、信頼性及び品質の確保のために、品質専用担当者の設置や、他部署で実施していた長さ（JCS S）及び照明（JNL A）の品質マニュアル及び品質記録、実績を一元管理するなど、国際規格対応支援の体制を充実したことは評価できる。

以上でございます。

**【青山分科会長】** ありがとうございます。こちらの評価については、Sが3、Aが2と分かれておりますけれども、何かご意見、いただければありがたいんですが、いかがでしょうか。何かございますか。

こちらは、私は、国際規格等の支援を充実した成果として過去最高の実績が出ているというところを高く評価したいということでありましてSという評価をしたんですが、これに対して、ほかに何かご意見がありましたらいただきたいのですが、いかがでしょうか。

最初の、その目標がちょっと、そのところがそもそもというようなご意見も少しあるようですが、特にご意見はございませんか。よろしいですか。

はい、藤竿委員、お願いします。

**【藤竿委員】** 私もここは件数をかなり大幅に伸ばしているというところを評価して、中でも航空機関連の減圧恒温槽の利用が相当伸びているというのを評価したんですけども、ただ、ちょっとこの件数の内訳がよくわからないので、何社も利用したのか、特定の会社が何回も利用したのかというのはちょっとよくわからないんですけど、いずれにせよ、ちょっと利便性が向上したというところを含めて、それらの件数につながっているであろうというところで、まあ、ちょっと評価を上げました。

**【青山分科会長】** はい。ほかに何かご意見はございますか。

はい、どうぞ。

**【牧野技術調整担当課長】** 今の減圧の恒温槽の件ですけども、これは先ほど申したよ

うに、もともと依頼試験で使っていたような、主に依頼試験で使っているものだったものを機器利用のほうの形にしたということで、大口が入ったということではございません。なので、利便性をよくしたことによって件数が上がったと理解しております。

【青山分科会長】 新規のあれがふえたということですか。大口、それはわからない。

【牧野技術調整担当課長】 中身のお客さんが新規かどうかはちょっとわからないですけども、今まで依頼試験で職員がやっていたものを使いやすくしたということなので件数が伸びたという。

【青山分科会長】 はい。ほかに何か。

それでは、これSが3、Aが2と分かれているんですけども、センターの自己評価Sということでございまして、こちらの委員会の評価としてはSということにさせていただくかと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。はい。

それで、コメントですが、いかがでしょうか。今、ちょっと藤竿委員からも少しお話がありましたけども、コメントにするかどうかですよね。

【牧野技術調整担当課長】 今の個別の。

【青山分科会長】 その内訳がちょっとよくわからない。

【牧野技術調整担当課長】 ええ、そこのところをあえて入れるかというところがちょっとあったんです。

【青山分科会長】 ええ。いかがですか。まあ件数がふえている理由ということなんですが、その内訳をよく分析して今後の展開につなげてほしいと、さらなるサービスの向上につなげてほしいというようなことはいかがでしょうかね。そういうコメントを入れてもらうというのは、よろしいですか。

事務局もよろしいですか。

【牧野技術調整担当課長】 はい、わかりました。では、3番目に、分析して、さらなる向上ということを趣旨で記載します。

【青山分科会長】 はい。

ほかに何か。よろしいでしょうか。はい。

それでは、この件は、評価Sで、1項目、今の分析のことについて追加します。

では、項目の15をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 項目15の技術経営援助でございます。Sが1名、Aが4名となっております。

中小企業振興公社と連携したセミナーの開催、技術相談、実地技術支援を着実に実施している。

特許などの出願、知的財産権の実施許諾件数も増加しており、評価できる。

特許を取得し、中小企業の活用を促すことで、新規性の高い製品の開発に貢献できるため、知的財産活用のさらなる展開を期待する。

以上でございます。

**【青山分科会長】** ありがとうございます。いかがでしょうか。

こちら評価指標は、Sが1名で、あとは4名、Aということですので、自己評価はSではありますけれども、委員会の評価としてはAということかと思えますけれども、よろしいでしょうか。

それでは、コメントですが、コメントについて、いかがでしょうか。

**【北村委員】** これは、センターの評価のSの理由で、出願の大幅な増加というのがSの根拠に書いてあるんですけども、どこのことを言っているのかなという。このA3の36ページの(11)のところが出願への取り組みとなっているんですけども、その前年度比を見たときに、大幅にというふうに言えるのかなみたいな。出願実績、44が54になったという、これを言っているんですかね、一番右側の一番下のところを見ると。

**【青山分科会長】** 前年度44で、全54件、はい。

**【北村委員】** これを言っているんですかね、大幅というのは。

**【牧野技術調整担当課長】** そうですね。基盤研究に基づく件数は24から29で、共同研究に基づくものは16から18なので、大幅と言えるかどうかというところとちょっというところがありますね。これは全体のことを、10件ふえたと言っているんだと思う。

**【北村委員】** ああ。

**【青山分科会長】** よろしいですか。

ほかに何か。

それでは、特にほかにご意見なければ、15番目は、評価はAで、事務局でまとめたコメント3件と、3項目ということでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

では、次、16番目、お願いいたします。

**【牧野技術調整担当課長】** 項目16、技術審査でございます。Aが5名となっております。

前年度を上回る技術審査件数を実施しており、評価できる。

技術審査の精度向上のため、学会・講習会・展示会などにて中小企業が活用可能な最新事例を調査し、技術審査の質的向上を図っている。

今後も追跡調査を実施するなど、貢献度の定量的な把握を継続することを期待する。  
以上でございます。

【青山分科会長】      ありがとうございます。

それで、これは委員全員がAという評価で、自己評価もAということですので、この評価指標についてはAということによろしいでしょうか。はい。

それで、コメントを三つ挙げましたけども、いかがでしょうか。

はい。

【牧野技術調整担当課長】      ちょっと技術審査については、昨年度はSなんですね。ですので、このAに下がるというところのポイントが、技術審査による受託収益額が、件数はふえたんですけども、額が減ったということなので、昨年度より減ったというところをもってAという形かなと思ったんで、ちょっとコメントを加えるとすれば、その1ポツ目のところに、件数はふえたけども、ちょっと受託収益額が減っているというところもちょっと付加したほうがいいかなとちょっと思っています。

【青山分科会長】      なるほど。いかがですか。どこに加えると。

【牧野技術調整担当課長】      1番目に、受託収益額が減っているんですけども、件数がふえということで評価はできますよと。

【青山分科会長】      うん、という。

【牧野技術調整担当課長】      ちょっとネガティブ要因も一つ入れておいたほうがいいかと。

【青山分科会長】      はい。これ収益が減ったというのは、件数はふえたけど、収益が減ったというのは、要するに単価が下がったということですよ、簡単に言えば。

【牧野技術調整担当課長】      ちょっともう一回確認しますが、まあそういうことだなと。

【青山分科会長】      大口が減ったと、そういうことですか。

【牧野技術調整担当課長】      ええ。その一昨年度受けていた単価の高い、そういう依頼が減っちゃったのか、もともと頼まれていたもの、常時やっていたものの単価が減ってしまったのか、ちょっとそこはわからないんですけども、件数がふえて額が下がったというところは、単価が下がったかなというのは。

【北村委員】 前年度Sだったというのは、何ですかね。その前年度と比べて相当収益が上がったということがSの要因だったのか。

【牧野技術調整担当課長】 前年度は、まず、独法という特徴もあるので、やっぱり自己収益を上げるということがあるので、件数が上がったのと収益が上がったというところと、その件数を上げるために、やはりいろんなテリトリーをつくったりとか、なかなかこういう組織的にもいろいろ工夫をして検査ができたという内部努力があったので、それを踏まえてSという形で。その内部努力のところについては、昨年度と、一昨年度と同様かなというところなので、特別新しい、ここに、2ポツ目に書いたように質的向上を図っているんですけども、そこは延長線というか、一昨年度と同じようなことかなというふうに。

【青山分科会長】 いかがでしょうか。そう収益を上げろ上げろということもないんですよね、これはやっぱり公的機関なんで。それが第一主義というわけじゃないですから、あくまでも参考程度に収益が下がっているけども、全体のという程度のことでもいいかと思えますけど、よろしいでしょうか。はい。

ほかに何か、項目16については以上でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、17番目をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 項目17、海外展開支援でございます。

Aが4名、Bが1名となっております。

MTEPの相談実績が過去最高を達成している。

中手企業では対応が困難な国際規格の情報提供や国際規格に対応する試験を着実に実施するとともに、新たに、「航空機産業支援室」の開設や海外展示会の出展を支援しており評価ができる。

バンコク支所については、顕著な成果事例が生まれることを期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。17番目。

こちらの評価は、委員4名がAで、Bが1名で、自己評価はAということですので、特にご意見なければ、この委員会の評価としてはAということで行きたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 コメントについてはいかがでしょうか。これ、Bとやったのは私な

んですけれどね。ちょっと厳しくだったんですけど、Bは別に悪いというわけじゃなくて計画どおりということなんですけど、そのバンコク支所のところが、この間のご説明で、铸件物でしたっけ、メッキか、メッキの相談がこれいろいろありますというお話だったんですが、ものづくりのもっと広くいろんな分野があって、裾野がもっとあると思うんですね、バンコクでもね。

ですから、当初のバンコク支所を開設したというあたりから、少し何かこう最初の計画と違って、かなり、バンコク支所は開設したけれども、いろいろ問題があるような感じを受けたんですね、私。そここのところをやはりもう少し頑張ってもらいたいというのがコメントなんですよね、私の。

ですから、この事務局、バンコク支所については顕著な成果事例が生まれることを期待すると、これでいいかと思えますけれども、そのバンコク支所については、もう少しいろいろ取り組みを強化して頑張ってもらいたいと、こういうことですね。

他に何かございますか。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

**【青山分科会長】** それでは、このようにさせていただきます。評価はAで、コメントはここにあるとおりということです。

では、3に移ります。

多様な主体による連携の支援ということで、項目18について説明をお願いいたします。

**【牧野技術調整担当課長】** 項目18、産学公金連携による支援でございます。

Aが4名、Bが1名となっております。

「東京イノベーション発信交流会2018」において、金融機関等と連携しビジネスマッチング会を主催している。成約見込件数が、前年度の11社32件から今年度は26社72件に増加しており評価できる。

金融機関との連携も進んでおり、ネットワークも構築されつつある。また、異業種交流活動による支援も着実に実施している。

以上でございます。

**【青山分科会長】** ありがとうございます。

評価については、Aが4名、Bが1名ということでありまして、センターの自己評価がAということでございます。特に、何かこのことについてご意見ございますでしょうか。

特によろしければ、こちらはAが4名ということですので、この委員会の評価としては

Aということにさせていただこうと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 コメントについてですが、いかがでしょうか、二つまとめてありますけれども。

皆さん、かなり東京イノベーション発信交流会というところに、やはり注目してコメントを出されているというように感じますが、そのことはこのコメントにも含まれておりますけれども、1番目のところですね。よろしいでしょうか、これで。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 ありがとうございます。

それでは、18番目は、評価はA、コメントはこの事務局案を採用するということで。続きまして、19番目をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 項目19、行政及び他の支援機関との連携による支援でございます。

評価は、5名の委員の皆様がBとなっております。

新たに1機関と連携協定を締結し、連携協定締結機関数は増加している。

都産技研利用に対する自治体の助成事業実施機関が新たに1区追加され、中小企業の利用促進を着実に実施している。

今後も連携による具体的な成果を期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

こちらにつきましては、委員全員がBの評価で、自己評価はBということで、評価指標はBでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 それで、コメントですがいかがでしょうか、三つにまとめていただいておりますが、事務局案はいかがでしょうか。何か不足の点、あるいは、追加の点がありましたらお願いいたします。よろしいですか。

この個別のきょういらいっしやらないので、恐らくこれ林のコメントで、自己評価Bにならないよというのがあるのだけど、これはちょっとね、自己評価Bというのは悪くないので、計画どおりということなんでね、そこはちょっと林委員にも情報を共有したほうがいいかもしれないですね。

Cと違って、Dというのは余りこの委員会で聞いたことないんですけども、その辺がちょっとね。

よろしいですか。コメントもよろしいですか、これで。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 ありがとうございます。では、そのようにさせていただきます。

19番目については、評価はBということで、コメントはこの事務局案の採択すると。それから、では4番目ですね。

東京の産業を支える産業人材の育成というところで、項目20をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 項目20、産業人材の育成でございます。

Aが1名、Bが4名となっております。

技術セミナー、講習会は開催件数、受講者数とも前年度と同等の実績であり、着実に実施されている。

グローバル人材の育成については、金融機関と連携して新たにTV会議を活用して中国で日系企業向け遠隔セミナーを実施した。

人手不足や経済のグローバル化等の中小企業の課題に対応するために、最新の技術動向や企業のニーズを踏まえて、セミナー等の質的向上や利便性向上を図り、ニーズに合った技術者やグローバル人材の育成に期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

評価につきましては、Aが1、Bが4ということになっております。それで、自己評価はBでありますので、この20番目については、評価はBということでいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 コメントについてはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、評価はB、それから、コメントについては、この事務局でまとめた案の採用するということがよろしいでしょうか。

では、21番目をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 項目21、情報発信・情報提供でございます。

Aが3名、Bが2名となっております。

展示会の出展やクロスミーティング、施設公開等を行い、情報発信を着実に実施している。

利用者に効果的に情報を提供するために、新たな取組みとしてウェブサイト動画に掲載し、事業PRを行ったことは評価できる。

イノベスタ、クロスミーティングの実施体制を変更し、業務委託費を前年度比約1,200万円のコストを削減した。

以上です。

**【青山分科会長】** ありがとうございます。

こちらはAが3名、Bが2名ということで分かれておりますが、いかがでしょうか、何かご意見いただければと思いますが。

私は、これマルチメディアをいろいろ活用して、この情報発信をするという取り組みをいろいろ工夫されているということなので、そこを高く評価してAと評価して、Aという判断をいたしましたけれども、ほかの委員の方、何か追加のコメントがあればと思いますが、いかがでしょうか。

**【北村委員】** 私はですね、ここの最後に書いてある委託費の1,200万円のコスト減というのが、減少面で1,200万円だけど具体的にはどうなのというのがちょっとよくわからないし、というのは変な言い方をしますと、余りにもその削減額が大き過ぎるので、大きいという言い方はどうかわからないんですけども、昨年度は果たしてどうだったのというね、そっちの方も気になるなという気がしますけどね。

例えば、この去年が、これA3の56ページに書いてありますけれども、イノベスタというのは、昨年は1,570万なのが700万円、半額以下になっているんですね。

こういうドラスティックな減少というのは要因が何なのかなという、そのところがよくわからないので、単に1,200万すごいねというような話では評価できないかなと思ったんですけどね。

**【青山分科会長】** イノベスタというのは。

**【牧野技術調整担当課長】** 施設公開ですね。ビジネスデーとファミリーデーがございまして、一般の中小企業向けと、子供たち向けのファミリーデーというのがあって、そのやり方をちょっと変えてというところで、ちょっと、このコメントとして、削減したことを評価するという意味でちょっと書いている、事実として削減したということに記載したという趣旨で、ここを評価するという、そういうことだったんですけども。

【北村委員】　　そういうことで、中身がわからないものですから何とも言えません。

【青山分科会長】　　そういう感想をもったということですね。

【牧野技術調整担当課長】　　ちなみに、委員手持ちの最後のコメントで、要は入場者数が大幅に減りましたよというところがあって、ちょっと、それは何で減ったのかというところを確認すると、城東支所と多摩テクのツアーについては、要は天候が悪かったというのが結構あったんです。

多摩テクノプラザというのは、近隣にいろんな農業試験場とか、いろんなところと共同でやっているものですから、やっぱり天気が悪いとちょっと集客力が下がるということなんです。

本部については、そのビジネス向けの人数は前年度並みだったそうなんですけれども、そのファミリーデーを子供向けなので、いろんな体験教室とか、そういうのをやっているんですけれども、昨年については事前申込制にしたということで、それまでは当日来た人の先着順だったんですけども、そこは利便性の向上を図るところで、事前登録制にしたのがちょっと来られなくなっちゃった人がいたんじゃないかということで、人数が減ったのではないかという形で分析をされているので、ちょっと、これ様子を見ないとちょっとわからないので、あえて、ちょっとここはコメントはしなかったという。

【青山分科会長】　　事前登録にすると、ちょっと登録が面倒くさいというので、ならいいやみたいですね、そういうことが起こりかねないですね。

ただ、主催側としては、どのぐらい来るかがあらかじめ把握できるので、これ大学のオープンキャンパスと似ている。そういう痛しかゆしがありますよね、そういうところはね。

まあ、これイノベスタの費用が半分近く下がっているって、これはよく内容のところは確認しなきゃわからないんですけどね、こういうのって、これは何かイベントですよ、展示するね。

【牧野技術調整担当課長】　　そうですね、施設公開ということで、いろんな。

【青山分科会長】　　イベントね。

【牧野技術調整担当課長】　　ええ。

【青山分科会長】　　そういうイベントのやり方というか、イベント会社はどこを入れるとか、どういうスケールで外注してやるとかかね、そういうのでがらっと変わったりしますよね、こういうのってね。

【事務局】　　すみません、補足させていただきます。

今まではイノベスタのファミリーデーというのは1,000人ぐらい来場者が去年あったらしいんですけど、それはいわゆる集客を目的として、いろいろイベント会社に企画をさせていただいたみたいなんですけど、昨年度はより子供たちとかは実質的に実地体験ができるような形で、工作教室みたいなことをやったので、たしか1,000人から100人規模ぐらいの10分の1ぐらいの参加者になってしまったんですけど、いわゆる、子供たちが実際に楽しさを体験できるような教室型みたいな形にしたので、実際には、やり方を変えたのでコストが下がったというふうには伺っております。

【青山分科会長】 なるほど、そこはイベント会社がもう全部やるというのではなくて、多分、この所員の方が子供たちを相手に。

【事務局】 と伺っております。

【青山分科会長】 大分変わると思うんですね。コストが下がればいいのかという、そういうものでもないと思うけど、どのぐらいやはり方法に情報発信と、それから、例えば地域のそういう方との結びつきに、どういう形で貢献できるかということですけどね。1,000人来るほうがいいのか、100人、200人で子供たちが実際に、どっちもいいんですけどね、これなかなか難しいですよ。両方やってくださいというと、これはコストがかかってくると思うんですけど。

今回はそこを変えたということですよ。そこのところをね。だから、そこを変えてどうだったかというのを、後でその結果についていろいろ評価して、自己評価していただいて、来年にはどういう形でやるのがいいのか、検討してほしいということだと思いますけどね。

ほかに何かご意見はございますか。

それで、これはAが3名、Bが2名ということでございますが、自己評価がAということもありまして、特に強いご意見なければ、この委員会の評価としてはAということやらせていただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、そのようにさせていただきます。

コメントについては、今ちょっと議論しましたけど、そのところを少し。

【牧野技術調整担当課長】 その内容に向けて分析して検討してくださいというような趣旨で加えさせていただきます。

【青山分科会長】 続きまして、22番目をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 項目22、組織体制及び運営のところでございます。

5名ともBという評価になってございます。

中小企業のIoT化支援事業を実施するために「IoT開発セクター」を新設する等、効率的な執行体制を確保している。

業務時間分析の結果、職員の研究開発の時間の割合が31.5%と前年度比2.2%改善しており、研究員の研究時間を確保するための方策にも効果が見られる。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

こちらは組織体制及び運営というところと、運営の効率化、経費節減、これは皆さん評価はBということで、自己評価はBということですので、評価としてはBということよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 コメントについてはいかがでしょうか。こちらのコメントでよろしいですか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 ありがとうございます。

それでは、項目の23をご説明ください。

【牧野技術調整担当課長】 項目23の財務の関係でございます。

評価は、Bが5名となっております。

積立金を取り崩し、城東支所リニューアルに伴う機器を整備する等、資産の運営管理を適正に行っていると。

引き続き、校正・保守の経費を抑制している。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

こちら委員全員がB評価で、自己評価もBということですので、評価としてはBということよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 コメントは二つまとめてありますが、何かほかに追加等ございますでしょうか。

この辺、運営のあたりは、財務、予算等々、この案のところは安定してこれが運営され

ているといったようなところだと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、最後になりますかね、項目24をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 項目24、危機管理対策等についてでございます。

評価は、Bが5名となっております。

情報管理研修、関係法令等に基づく安全点検、健康管理講習会等を適正に実施している。

情報セキュリティの問題は益々深刻となっており、情報漏洩防止の取組強化と事故が生じた場合の早急な対応を望む。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

こちらも自己評価がBで委員全員がBという評価ですので、評価としては、この委員会の評価はBということよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 ありがとうございます。

コメントについてはいかがでしょうか。よろしいですか。

情報セキュリティ、これからやはりますます巧妙になってくるので、いろんなアタックがですね、産業センターとしてもこれは注意していかなくちゃいけないことですが、この年度に大きな事故があったですね、情報漏洩みたいな。

【牧野技術調整担当課長】 そうですね。

【青山分科会長】 コメントとしてはこの二つでよろしいでしょうか。

【牧野技術調整担当課長】 すみません、昨年、プレス発表しているんですけども、バンコク支所でメールリストをしたときに、実はアドレスを書いた内容をBCCに送ってしまったというところがちょっとございまして、そこはちょっと対応させて、至急プレス対応をして改善を図っているところでございます。

【青山分科会長】 どうぞ。

【波多野委員】 このコメントを書いたのは私なんですけれども、余りこの24項目めに情報セキュリティという言葉がありますけど、この1項目め、特にここに書いてなかったので追加で書いただけなんですけども、コメントでこれを入れてもいいのかなというふうに。

【牧野技術調整担当課長】 情報セキュリティ、危機管理対策の一環になりますので、

情報漏えいは都庁も非常に重要な問題になっておりますので、結構でございます。

【青山分科会長】 危機が起こったときの危機管理対応委員会みたいなのはあるんですかね、この中に。そういうときには招集される委員会はある。

【牧野技術調整担当課長】 ええ。何か事故が起こったときに、その連絡体制とか、その辺はちゃんとできて、何か事故があると、その委員というか、またことしからコンプライアンス委員会というのを立ち上げるような形になっていきますので、その辺の強化は図っているところです。

【青山分科会長】 よろしいですか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、こちらは評価はBで、コメントは事務局でまとめてある二つということでまとめさせていただきたいと思います。

以上で、項目別の評価について全てご意見をいただきましたが、少し予定、きょうは皆さん非常にご協力いただいております、円滑に進んでおります、予定の時間ちょっと1分ぐらい早いんですけども、何か戻って個別評価についてもう一度ごらんいただいて、何かご意見はございませんか。

今回少し、今まで何か、波多野委員が今回からということですが、これまでの委員会、私、なんか3年ぐらいやったんですか。

【牧野技術調整担当課長】 3期目です。

【青山分科会長】 3期目でしたか。見ていますと、産技研がその青梅に移ってきて、かなり前のところから機器等が設備が非常に充実したという、そして飛躍的によくなったということがあって、かなり計画を上回るいろんな事業が展開してきたということがあって、今までは割合S評価がかなり多かったんですね。かなりといっても、そんなに多くはないですけど、ことしより結構Sが多かったんですが、私の印象としては、青梅に移って数年経過して、その運営が安定化してきていて、そういう面では予想以上のというよりは、計画どおりの延長線上のそういう発展、事業の伸展が見られるというところに、ステージとしては移ってきているんじゃないかなという、そういう印象を受けますね。

これは決して悪いことじゃなくて、安定した運営のステージに移ってきているということで、そこをさらなる飛躍的なのということは、新たな何か工夫、新たな、例えばきょうは1～24までの項目で、いろいろ項目ごとに挙げて評価しているんですが、この項目に当てはまらないような、何か新たな工夫とか、取り組みとか、そういうのが出てくれば、そ

それは次のステップかなという印象を私としては思いますが。

よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、項目別の評価は以上でございまして、審議を終了させていただきます。

念のため、項目1から、きょう認定していただいたものを確認したいと思います。事務局のほうで読み上げていただけますか。

【牧野技術調整担当課長】 はい。まず項目1からです。項目1はA、項目2はB、項目3はB、項目4はA、項目5、B、項目6はB、項目7、A、項目8、A、項目9、S、項目10、A、項目11、A、項目12、A、項目13、B、項目14、S、項目15、A、項目16、A、項目17、A、項目18、A、項目19、B、項目20、B、項目21、A、項目22、B、項目23、B、項目24、Bでございます。よろしいでしょうか。

【青山分科会長】 よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、確認させていただきました。

それでは、ここで少し休憩をとりまして、この後は全体の評価のほうの審議をしたいと思いますが、どのぐらい休めばいいですかね。

【牧野技術調整担当課長】 10分程度で。

【青山分科会長】 10分ぐらい休憩をとらせていただきます。では、10分後に再開をよろしくお願いします。

午前11時11分 休憩

午前11時22分 再開

【青山分科会長】 それでは、10分ぐらい経過したと思いますので、再開したいと思います。

先ほどの項目別評価ですが、集計がここにいただいております、全24項目の中で、Sがついたものが2項目ですね、Aが12項目、Bが10項目という形になっております。

それでは、この先ほどの項目別評価を踏まえまして、全体項目の審議に入りたいと思います。

最初に、事務局から資料2になりますが、平成29年度業務実績評価全体評価(案)について説明をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】　　ちょっと全体評価（案）の補足で、先ほどの項目別のところの情報発信のところ、人数が減ったというところがあったんですけど、ちょっと確認したら、今までそのファミリーデー向けの子供の対象は、例えば小さいお子様から幅広くやっていたんですけども、昨年度は高学年向けというか、そういう形で、要は短いイベントの、誰も参加できるような優しいイベントだったのを、ちょっと質を上げて時間を長くとったりしたということで、減った要因はそこのところだそうです。

それと、技術審査については、要は審査員をお願いされて現地に行く件数は結構ふえたということで、そうすると、実際、その場で審査するのと、一つ一つ審査すると例えば時間が変わってくるので、そういう意味で外の仕事がふえたというところがあるので、それが一つの信頼されている要因でもあるので、多額の収益性について議論というのは、なかなか難しいのではないかとのご意見をいただいたので、ちょっとそこのところのコメントは、少し工夫させていただければなというふうに思っております。

【青山分科会長】　　では、お願いします。

【牧野技術調整担当課長】　　全体評価（案）の資料2なんですけども、この評価（案）については、先ほどの項目別評価のところ、この2ページ以降の2の研究開発、技術支援及び法人の業務運営等についてのところを、項目別とかをまとめたものをここに記載しております、さらに、総評のところ、29年度の評価の特徴というところが、顕著なところを含めてまとめさせていただいたという構成になっておりますので、ご確認いただければと思っております。

以上でございます。

それで、全体評価のところの評語のところなんですけども、ここ5名の方が上から2番目のところになっております。また後で分科会長のほうから話があると思いますが、そういうことになっております。

【青山分科会長】　　それでは、まず総評のところの情報を決めたいと思いますが、今、事務局からちょっとご説明ありましたけども、皆様の評価結果は5名とも、業務全体が優れた進捗状況にあるという評価をいただいておりますが、これについてご意見何かございますか。

その全体1、2、評語の項目として、表現と表記としては、業務全体が特筆すべき進捗状況にある。その次の業務全体が優れた進捗状況にあるというところが、皆さんの一致点だということですが、こちらでよろしいでしょうか。特にほかに何かご意見ございますか。

よろしいですか。

(「はい」の声あり)

**【青山分科会長】** それでは、総評の評語につきましては、「業務全体が優れた進捗状況にある」ということにさせていただきたいと思います。

それでは、続きまして、1番目の総評ですね、今の文章について審議をしたいと思いますが、まず総評のところは最後にいたしまして、まず資料2の2ページ目ですね、2番目、研究開発、技術支援及び法人の業務運営等についてのこの項目ごとに審議をしたいと思います。

まず、(1)東京の産業発展と成長を支える研究開発の推進について、事務局から読み上げをお願いします。

**【牧野技術調整担当課長】** (1)について読み上げさせていただきます。

都産技研は、中小企業の生産活動の基本となるものづくりの基盤技術分野と、中小企業による新しいサービスの創出が期待できる重点技術分野について研究開発を行い、その成果を中小企業の技術力、競争力強化のための支援に活用している。

基盤研究については、平成29年度は「環境・エネルギー」、「生活技術・ヘルスケア」、「機能性材料」、「安全・安心」の重点4分野とし、ものづくり要素技術分野や継続テーマ等を合わせて計94テーマ実施した。基盤研究の成果をもとに、製品化・事業化3件、共同研究14件、外部資金獲得11件と成果展開につながるとともに、論文発表数、口頭発表数も増加しており評価できる。

共同研究については、製品化・事業化の事例及び特許等の出願・登録の件数が前年度以上に増加している。また、「中小企業のIoT化支援事業」、「航空機産業参入支援事業」、「障害者スポーツ研究開発推進事業」において中小企業との共同研究を開始した。

外部資金等の獲得については、研修・指導を強化し、これまで応募していなかった外部資金にも挑戦する等、応募件数が増加した。今後も、外部資金導入のために積極的に活動し、採択数の増加につながることを期待する。

ロボット産業活性化事業については3年目を迎え、ロボットの導入を促進するために、様々な国内展示会へ出展したほか、新たにロボット利用相談ウェブページを開設して、ユーザー向けに情報発信を行う等、事業化支援を強化している。また、社会的ニーズに合った特徴のあるロボット開発や、AI、IoTとの連携による更なる機能を提供するロボット開発等により、中小企業の新規事業につながることを期待する。

生活関連産業の支援については、オーダーメイド開発支援の件数が前年度を下回ったものの、中小企業では適用の難しい感性工学、人間工学的なアプローチにより、特徴ある製品開発につながっている。

以上でございます。

【青山分科会長】      ありがとうございました。

(1)の部分について、評価の案ですね、案文を読み上げていただきましたが、いかがでしょうか。事務局のほうで、個別の評価のところの皆様コメントも含めながら、こういう案文をまとめたわけですが、何かご意見ございましたら、このところを追記とか、あるいは、削除とか、何かご意見ございましたら、お願いしたいと思いますが、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】      それでは、(1)については以上ということで、では、(2)を続けてお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】      (2)について読み上げさせていただきます。4ページ目です。

都産技研は、製品開発の課題解決のための技術相談を始め、各種依頼試験、機器利用サービス、製品の品質・性能評価等を通じて、中小企業の新製品・新技術の開発や新事業分野への展開を支える技術支援を実施し、更には数多くの技術審査を実施することで、優れた技術の発掘にも寄与している。

都産技研ならではの依頼試験であるブランド試験について、試験件数および全依頼試験に占める割合が、いずれも過去最高の実績となっており評価できる。また、機器利用サービスの提供についても過去最高の実績となっている。

城東支所に「デザインスタジオ」、「ものづくりスタジオ」を開設し、地域のものづくり支援の強化を図っている。

3Dものづくりセクターでは、依頼試験・機器利用の合計実績は前年度比微減であったものの、中期計画目標値を上回る実績を上げている。また、オーダーメイド開発支援は前年度1件から22件に増加しており評価できる。今後も更なる独自性のある高度な製品開発事例につながることを期待する。

先端技術開発セクターでは、機能性材料、環境対応製品など先端材料製品の開発支援等に取り組んでおり、独自性の高い製品化の事例が生まれている。中でも、紙やプラスチック

に替わる新素材の開発支援において、依頼試験で炭酸カルシウムの粒子特性解析を行い、製品化を後押しした。

この製品は、平成29年度東京都トライアル発注認定商品に選定されたほか、2017年度グッドデザイン賞等も受賞している。

複合素材開発セクターでは、研究開発において、成長産業分野での活用が期待されるCFRPの開発のほか、最新のレーザー加工技術による東京染小紋型紙の作製技術開発を行い、伝統産業にも貢献した。

公益財団法人東京都中小企業振興公社と連携し、セミナーや技術相談、実地技術支援、これ相談というのは削除です、を着実に実施した。知的財産については、特許等の出願、知的財産権の実施許諾件数も増加しており評価できる。特許を取得し、中小企業の活用を促すことで、新規性の高い製品の開発に貢献できるため、知的財産の更なる展開を期待する。

次ページに行きまして、東京都や自治体等が実施する技術審査への協力では、技術審査受託収益は減少したものの、前年度を上回る技術審査件数を実施しており評価できる。また、技術審査の精度向上のため、学会・講習会・展示会等にて中小企業が活用可能な最新事例を調査し、技術審査の質的向上を図った。

中小企業の海外展開のための技術支援では、広域首都圏輸出製品技術支援センター（MTEP2）の相談件数の実績は過去最高であった。中小企業にとって海外展開はますます重要になるが、中小企業は国際規格等への対応が困難なことから、様々な取組を通じて、今後も高水準の支援を期待する。バンコク支所については、現地サービスに工夫を施す等、今後の事業展開に反映することが望まれる。

以上でございます。

**【青山分科会長】** ありがとうございます。

それでは、（2）ですね、この部分について、いかがでしょうか。中小企業の製品技術開発新事業展開を支える技術支援という項目であります。

はい、どうぞ。

**【波多野委員】** 先ほど余り理解できなかつたんですけど、最後のバンコク支所についての対策というか、それは現地サービスを工夫するのかなのですか、活性化するには。

**【牧野技術調整担当課長】** 委員手持ち資料2のところの一番最後のページが、全体評価について委員の皆様からいただいた意見がまとめてあって、先ほどの項目別のところで

青山委員長のほうからもお話があったように、開設したのは27年度から開設しているんですけど、それから3年たってきているんですけども、中身的に余り進展がないというか、毎回同じような形なので、ちょっと新たなサービスという言い方がいいのかはあるんですけど、もう少し何か工夫ができないのというところで、ちょっとここで委員の意見を参考にして記載させていただいたところでございます。

【青山分科会長】 よろしいですか。

ほかに何か。

このちょっと文章のてにをはで申しわけないんですけど、この5ページ目の一番上のところですね、2行目、前年度を上回る技術審査件数を実施、まあ、これでもいいのかもしれないですけど、「件数を達成しており」という言い方のほうが、何となくいいような気がするんですけどね、「達成」という。

【牧野技術調整担当課長】 はい、では、そのように変更させていただきます。

【青山分科会長】 ほかに何かございますか。

3Dものづくりセクター、これは3Dのところですよ、4ページ目のところね。

【牧野技術調整担当課長】 はい、そうです。

【青山分科会長】 ここをちょっとさっき個別のところでは議論というか、意見交換があったんですけど、これ件数がいろいろ目標値を上回る件数、これはこれでいいのですが、例えば、今後も更なる独自性のある高度な製品開発事例につながる。例えば、今後もハードウェア、ソフトウェアの面でのそういう業者の研究開発というのですかね、そこはちょっと事務局に文章をお任せしたいと思いますが、そのハードとソフトの両面からの3Dものづくりの開発と技術支援と、そこをちょっと入れたらどうでしょうかね。それでもって、独自性のある高度な製品開発事例につながるというようなストーリーで書いていただく、いかがでしょうか。

【牧野技術調整担当課長】 先ほど、項目別評価の議論、ここを反映させていただきたいと思います。

【青山分科会長】 ほかに何かよろしいですか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、(3)多様な主体による連携の推進をお願いします。

【牧野技術調整担当課長】 (3)でございます。

都産技研は、中小企業の技術的課題の解決を促し、新製品・新技術開発や新事業分野へ

の展開を促進するため、自治体や大学・研究機関、金融機関と連携した支援を実施している。

区市町村や大学、金融機関等との連携協定については、平成29年度に新たに1機関と協定を締結し、計58機関となった。連携を通じ、展示会や講習会、交流等での都産技研の研究成果のPRや共同研究などに取組んでいる。

平成28年度に引き続き、金融機関等と連携して、2回目のビジネスマッチング交流会「東京イノベーション発信交流会2018」を主催した。平成29年度の成約見込件数は26社72件と前年度より増加しており評価できる。

以上でございます。

**【青山分科会長】** ありがとうございます。

いかがでしょうか。こちらはよろしいですか。

特にご意見なければ、この原案どおりとさせていただきますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

**【青山分科会長】** ありがとうございます。

それでは、(4)番目をお願いします。

**【牧野技術調整担当課長】** (4)でございます。

都産技研は、セミナーや講習会等を通じて技術的知見の普及に努めることにより、中小企業の技術力や製品開発力の向上を支援している。

技術セミナー講習会は、前年度と同等の実績を維持している。技術革新や環境の変化により中小企業では人材の育成が重要な課題となっている。今後も中小企業の産業人材育成のため、最新の技術動向や企業のニーズを踏まえ、セミナー等の質的向上や利便性向上に取り組むことを期待する。

以上でございます。

**【青山分科会長】** いかがでしょうか。こちらはよろしいですか。

特にご意見なければ、この原案どおりとさせていただきます。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

**【青山分科会長】** それでは、原案どおりということで、(5)をお願いします。

**【牧野技術調整担当課長】** (5)。

都産技研は、多様な機会を通じて研究成果の普及や事業のPRを積極的に行い、利用拡大につなげている。また、研究開発の成果や保有する技術情報が多くの中小企業の製品開

発や生産活動に活かされるよう、広報媒体を活用して情報を提供している。

都・区市、金融機関、民間団体主催展示会への出展、研究成果発表会「TIRIクロスミーティング2017」開催による技術シーズ・研究成果の発信、本部施設公開「INNOVESTA!2017」による事業や設備の紹介、ウェブサイトを活用した動画による機器の紹介など、積極的な情報発信に努めた。

以上でございます。

【青山分科会長】 いかがでしょうか。

「INNOVESTA!」って、この後ろにビックリマークがついていたんですね。

【牧野技術調整担当課長】 ついています。

【青山分科会長】 それでは、この原案どおりでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 ありがとうございます。

それでは、(6)法人の組織体制及び業務運営等をお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 (6)。

限られた人員や施設の中、本部や支所を通年で安定稼働させつつ、適切な執行体制を確保し、中小企業への支援を切れ目なく実施しており、適切な組織運営が図られていることは評価できる。中小企業の持続的な発展のために、将来のニーズを見据え、必要な技術開発や人材育成を進め、中小企業をリードして欲しい。

事業動向を踏まえた効率的な執行体制の確保のため、プロジェクト推進事業部を発足させ、新たに「中小企業のIoT化支援」、「航空機産業への参入支援事業」、「障害者スポーツ研究開発推進事業」を開始させる等、運営体制を整備した。

今後も中小企業のニーズにあわせた柔軟な組織運営を図り、業務改革の推進のため様々な活動を継続し、経営の効率化に努めるとともに、研究開発業務の充実が図られるよう期待するということで、ちょっと1ポツ目の後段の部分は、ちょっと今回の委員の意見を踏まえて、都産技研の人材育成を進めてほしいということをおっしゃっていただいております。

【青山分科会長】 人材育成の部分を追記している、加えているということですか。

【牧野技術調整担当課長】 都産技研の人材育成です。

【青山分科会長】 はい。いかがでしょうか。何かご意見ございますか。

これはちょっと文章の表現なんですけど、2ポツ目の2行目の「事業部を発足させ」と

ある、「発足し」でいいんじゃないですかね、これ。その前の文章の1番目のポツ1の2行目は「執行体制を確保し」だからね、ここも「発足し」でいいんじゃないですか。

【牧野技術調整担当課長】 事業を開始させるも、ちょっとさせるより。

【青山分科会長】 うん、開始。

【牧野技術調整担当課長】 開始するなどとか。

【青山分科会長】 客観的に見ると、「させ」とかなんとか、そういう言い方になるんですけどね。主体的に書くとすれば、「し」とかなんとか、こっちの言い方のほうが、表現の問題ですけど。

何かご意見ございますか、(6)の部分。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、その次の7ページ目は、これは用語の説明ですね、AMと、1番と2番の。

【牧野技術調整担当課長】 この用語の説明については、ほかにも幾つかわかりにくいものがあるので、そこはもう少し精査して加えていきたいと思っております。

【青山分科会長】 わかりました。

それでは、これで後半の部分が済みましたので、最後に総評ですね、ここについて事務局からその案文を読み上げていただきたいと思います。1ページ目のところです。

【牧野技術調整担当課長】 ここは全体の総評というところで記載しております。

1番目です。第三期中期目標期間の二年目を迎えた東京都立産業技術センターは、重点技術分野である「環境・エネルギー」、「生活技術・ヘルスケア」、「機能性材料」、「安全・安心」の研究開発を実施するとともに、様々な支援事業において製品化につながる成果が生まれている。また、東京都の施策と連携して、新たに「中小企業のIoT化支援事業」、「航空機産業への参入支援事業」、「障害者スポーツ研究開発推進事業」の取組を開始した。

3Dものづくりセクターでは、3D技術を活用して、多様で独自性の高い製品開発を後押しするとともに、新たにセラミックAMIの基礎技術を確立する等、技術の進展を見据えて積極的に取り組んでおり高く評価できる。

実証試験セクターでは、依頼試験と機器利用の合計実績が過去最高となっており、高く評価できる。また、本セクターの品質保証推進センターにおいて、信頼性及び品質の確保のために、品質専用担当者を設置し、JCS S及びJNL Aの品質マニュアルや品質記

録、実績を一元管理し、国際規格対応試験の支援体制を充実したことも評価できる。

ロボット産業活性化事業については、公募型共同研究開発事業等を通じて様々な分野で活用するサービスロボットの開発支援を実施するとともに、商業施設等で案内ロボットの実証実験を行い、実用化へ向けた事例が多く確認され評価できる。

技術相談や依頼試験は高水準を維持している。また、都産技研では、利用者の利便性向上及業務効率化の観点から、依頼試験から機器利用サービスに移行を促しており、機器利用サービスの実績は過去最高となった。

複合素材開発セクターでは、都産技研が培ってきた繊維加工技術等を発展させて、高機能繊維材料や繊維強化材料による製品開発を支援している。多摩テクノプラザに開設して2年目を迎え、依頼試験と機器利用の合計実績が前年度から大きく増加しており評価できる。

中小企業の海外展開のための技術支援では、広域首都圏輸出製品技術支援センター（MTEP2）の相談実績は過去最高を達成した。中小企業に対する国際規格対応試験の実施や新たに航空機産業支援室を開設し、中小企業の航空機産業参入への支援を行うなど、中小企業の海外展開を支援している。

このように、都産技研は地方独立行政法人のメリットを生かし、産業動向を見据えた機動性の高い組織運営や、中小企業ニーズに合致した柔軟な業務運営を積極的に図り、成果を上げていることは評価できる。

今後も、都産技研の基本理念である、ニーズオリエンティドな事業運営、事業化を見据えた技術支援、産業育成に直結する研究開発の3本柱に基づき、中小企業の製品化・事業化につながる研究開発の推進及び国内外の市場ニーズを的確に捉えた製品開発を支える技術支援の拡充により、中小企業の発展に寄与することを期待する。また、都産技研の支援により製品化・事業化した事例について都産技研の貢献度や新製品の経済効果等をより一層把握し、効果的にPRすることで、都産技研のプレゼンス向上につながることを期待したい。

最後のポツのところは、前段、去年もこのような表現をしているんですけども、さらに、ことしの委員会としての期待ということで加えさせていただいて、主にこの資料2の最後のページのところを見ると、やはり、製品開発に当たってどれぐらい貢献したかとか、それがどれぐらい社会的・経済的に効果があったとか、そういうことをより一層把握して、さらには、話の中でもっとPRをしたほうが良いところがあったので、ちょっと、そうい

うところを加味して、ここ最後につけ加えさせていただいたので、ちょっとご意見があればお願いしたいと思います。

【青山分科会長】      ありがとうございます。

総評についての案文を読み上げていただきましたけど、最後のところについて特にご意見をいただきたいということですが、もちろん全体についてもなんですが、何かご意見、追記、あるいは、訂正・修正等ございませんでしょうか。

いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

【藤竿委員】      最後の貢献度のところを指摘したのは私なんですけれども、ちょっとほかの機関でも、こういったような経済波及効果というようなものと試算してアピールしているというのもあるので、都産技研も以前からそういう指摘もあって、実際、そういう取り組みを拡充して行って、一定の成果事例集とかを出してるんですけども、まだ足りないところもあると思うんで、そういうところをもっと追跡調査等でアピールしていけば、イニシアティブ向上にもつながるんじゃないのかなということちょっと指摘させていただいたという感じです。

【青山分科会長】      はい。いかがでしょうか。

貢献度や新製品の経済効果等をより一層把握しということでの表現でよろしいですかね、こういう表現ね。

ほかに何かご意見ありますか。

【北村委員】      言葉というか、2ページの上からの二つ目のブロックですけども、その多摩プラザに開設して、そうじゃなくて、多摩プラザに何を開設していた。

【牧野技術調整担当課長】      多摩テクノプラザの中にこの複合素材セクターというのをつくったんです。

【北村委員】      ああ、そう読むのですか。何か読みづらくて。

【青山分科会長】      この素材開発セクターは、これこれを支援している。多摩テクノプラザに開設して2年目を迎え。

【牧野技術調整担当課長】      最初に持ってきたほうがわかりやすいですかね。1行目に持ってきたほうが。

【青山分科会長】      主語が、何ていうか頭がないね。文章の流れとしては推定はできるんだけど。ここを、では、わかりやすく直したらいかがですかね。直していただいたら。

よろしいですか。

よろしいですか、今の点は。

【牧野技術調整担当課長】 はい。では、同セクターはと。

【青山分科会長】 はい、どうぞ。

【波多野委員】 私ももともと産技研の目的である経済、さっきに戻ってすみません、経済的効果で、波及効果が重要だと、もともとの産技研の理念に相当するところだと思うんですけど、必ずしもプレゼンスを向上するためではないので、目的は。ここは何か分けたほうがいいかなと。

もともと経済効果を出すということが多分目的だと思いますので、何か分けたほうがいいような気がするんですね。ゴールが経済的効果なのに、プレゼンスの向上ではない。

【牧野技術調整担当課長】 ちょっとここの趣旨が、第1回の意見交換の議論のときに、一番最後の、委員長を含め産技研の理事長、理事から、いろいろな経済効果とか、そういう調査をしているけども、結構、安いから利用したとかですね、そういうちょっと何ていうか、安いからという、ちょっとそこが残念と、そういうところが、もう少しちゃんとした評価がそれならできるんじゃないかということであったりとか、まだ認知度が足りないというところもちょっと話がございましたので、ちょっとあわせてこのように表現させていただいたところ、そこもちょっと加味しているんですけども。だから、そのプレゼンスのところをあえて言うかどうかというところは。

【波多野委員】 文章を分けたほうがいい。

【牧野技術調整担当課長】 分けたほうがいいという形ですか。はい、わかりました。

【波多野委員】 そういう経済的な効果という発想を意識していくということと、あとは、その効果というのをプレゼンスの向上にもつながるみたいに、分けたほうがいいような気がしました。

【牧野技術調整担当課長】 はい、ちょっとそこを工夫させていただければと思いますけれど、よろしいでしょうか。

【青山分科会長】 そうですね、貢献度と経済効果をより一層向上させるとかね、させて、それでもって産技研のこれらを通してという、二つに分けた。

よろしいですか。文章をちょっと補正して。

【牧野技術調整担当課長】 はい、わかりました。

【青山分科会長】 ほかに何かありますか。

はい、どうぞ。

【藤竿委員】 ちょっと細かいところなんですけども、一番最後、「つながること」いうことというのは、「つなげること」ですかね。

【青山分科会長】 つなげることを期待する、プレゼンス向上につなげる。

【藤竿委員】 はい。

【青山分科会長】 「つなげる」、そうですね、主体的にですね。

【藤竿委員】 あと、ロボットのところでもご指摘あったんですけども、研究投資した費用に対する投資効果というのですか、それも入れば、まあ、どれぐらい投資して、リターンがあったのかというところも入れられれば、入れてもいいのかなという気がします。

【青山分科会長】 今は具体的には、入れ加え場所としては最後のところに、投資効果。投資とは都産技研のほうの投資をして、それをどういうということですね。

【藤竿委員】 予算で、それぞれ初期投資していると思うので。

【牧野技術調整担当課長】 費用対効果とかという表現でもいいですか。

【藤竿委員】 費用対効果で。

【青山分科会長】 費用対効果という表現で加えてください。

ほかに何か。

私も文章のね、申しわけないんだけど、最初の1ページ目の1ポツ目の3行目ですね、ここ、いろいろ「機能性材料」、それから、「安心・安全」の研究開発、まあ、これでもわかるんですけども、重点技術分野であるこれこれこれこれに関係、関する研究材料というふうに、「の」というところが「に関する」と、研究開発。重点分野の、この幾つかの重点分野に関する、でいかがでしょうか。

【牧野技術調整担当課長】 はい、わかりました。

【青山分科会長】 ほかに何か。

【波多野委員】 この「機能性材料」も重点分野でしたっけ。

【牧野技術調整担当課長】 そうです。「機能性材料」も。

【波多野委員】 これだけカテゴリーが違う感じがしました。

【牧野技術調整担当課長】 ここは産技研の重点事業にうたっている、結局、ロードマップでうたっているところはこの四つで、ちょっと例外があるんですけども、そういう形になっています。

【青山分科会長】 順番もこうなっているの。こういう順番で出ているんですね、いつもね。

【牧野技術調整担当課長】 たしか、そうです。

【青山分科会長】 ほかに何かご意見ございますか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、全体評価ですね、総評については今幾つかのご意見出ましたけど、それを反映して、ちょっと一部加筆訂正していただくということでお願いしたいと思います。

以上で、全体評価の案についてもご検討をいただきましたので、以上で、平成29年度の業務実績評価(案)は決まりました。ご協力ありがとうございました。

項目別、そして全体を通じまして、改めて何かご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

【牧野技術調整担当課長】 ちょっとよろしいですか。ちょっと参考なんですけど、ちょっとまだ時間があるんですが、従来は昨年までですと、知事に評価委員会のほうから報告するんですけど、ことしからちょっとその仕組みがなくなったんですけど、それは事務局というか都のほうでやるんですが、ことし、今年度のこの製品化事例の中で、これはすばらしいとか、これはおもしろいというような特徴的な、これがよかったというのは、今ちょっと参考にご意見をいただければなと思っているんですけど、ここは何かコメントがあれば。

【青山分科会長】 直接持っていってお見せしたりするの。

【牧野技術調整担当課長】 そうですね、実際に見せるかどうかかわからないんですけども、ちょっと二つぐらい毎年事例を挙げていますので。

【青山分科会長】 どうですかね。もう一回思い出していただいて。

【波多野委員】 You Tubeの3Dのあの加工とかは違うんですか。

【牧野技術調整担当課長】 ちょっと一つ考えているのは、毎年実は3Dのもの、結構いつも評価が高いので、3Dものづくりセクターに、開発しましたというものをやっているの、ちょっと3D続きというのが若干あって。

一つは、炭酸カルシウムの例は一つあるかなというのは思っているんですけど。

それと、ほかに何か。

【北村委員】 小紋なんかは。

【牧野技術調整担当課長】 小紋はやっぱりいいですかね。

【青山分科会長】 何ですか、北村さんがおっしゃった。

【牧野技術調整担当課長】 東京染小紋の型紙レーザー加工ですか。

【青山分科会長】 ああ、あれ型紙ね。あれはなかなか具体的ですよ。

3Dになるんだけど、僕は印象に残っているのは、スプレーじゃなくて、あれね、デザインはすごくいいですよ。

【波多野委員】 あれは実際に製品版になっているんですか。

【牧野技術調整担当課長】 生活関連産業支援部のあれですかね。

【青山分科会長】 除菌のスプレーでしたか。

【牧野技術調整担当課長】 ええ、あれは製品化されているそうなんです。具体的に、どこにしているという情報まではちょっと企業秘密というか、ちょっとそこまでは言えないというか、そういうパターン、ちょっともう一回確認させていただければ。

【青山分科会長】 あれは事例としては非常にいいですよ。

炭酸カルシウムはプラスチックがどうこうという時代なんで、いい事例だとは思いますが、よろしいですか。

【牧野技術調整担当課長】 はい、参考にさせていただきます。ありがとうございました。

【青山分科会長】 ほかに何か委員からございますか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 それでは、ご意見がないようでしたら、平成29年度業務実績評価につきましては、本日いただいたご意見を反映させた案を、コメントのところについてですか、主に。再度事務局で作成し、都産技研による事実確認を行った後で、次回の第3回の分科会で確定するものとさせていただきます。

以上で、審議事項は全て終了いたしました。全体を通して、何かご意見、ご発言はございますか。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【青山分科会長】 では最後に、事務局から連絡事項についてお願いいたします。

【牧野技術調整担当課長】 資料3のスケジュールのところのご説明をさせていただきます。

次回、第3回の分科会は、来週8月2日、2時半から4時半となっております。

開催案内につきましては、既にお手元に届いているかと思えますけれども、開催場所は今回と同様にこの場所になります。

審議事項は、本日ご意見いただいた評価について、事務局で修正したものを再度ご確認いただき決定させていただきます。

あわせて、平成29年の財務諸表・利益処分などに関する意見聴取についても予定しております。

年度評価につきましては、分科会での決定をもちまして評価委員会の決定となります。

第3回で決定しました評価案の結果につきましては、その後、9月上旬ごろに知事へ報告させていただき、その後、事務局より東京都議会へ報告する予定になっております。

以上が、今後のスケジュールでございます。

最後になりますけど、本日お配りした資料をまた郵送のほうをさせていただきますので、そのまま置いておいていただいても結構でございます。

事務局からは以上です。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

きょうは少し予定より皆さんご協力いただいたおかげで早く終わりましたが、以上をもちまして、東京都地方独立行政法人評価委員会、平成30年度第2回試験研究分科会を閉会いたします。

また来週ということになりますけども、よろしく願いいたします。

本日は、どうもありがとうございました。

午後12時02分 閉会

—了—